

令和4年度 第7回市長と能ん美りカフェトーク

寺井校下女性会との市長と能ん美りカフェトーク

日 時 令和4年11月11日（金）19時30分～21時

場 所 寺井地区公民館 301会議室

参加人数 20人

1) 会長 挨拶

- ・今日は市長をお迎えして、「能ん美りカフェトーク」という初めての試みをした。
- ・市長から市政のことを聞くのも勉強ですし、私たちのことを市長に聞いていただくことも有意義な時間になると思うので、楽しい時間になればいいと思う。

2) 市長 挨拶

- ・今日は貴重な機会をいただきありがとうございます。カフェトークということで、カフェにいるような気分で、ゆったりとしていただきながらお付き合いいただきたい。

3) 市政報告

○広報のみのリニューアルについて

- ・全市民にゆっくり、じっくり読んでもらえるように広報のみをリニューアルした。お子さんの写真を入れるなどし、好評いただいている。
- ・10月号に市内施設で使える券をつけている。また11月号にはのみ応援特典券第5弾がついている。

○インクルーシブのみ

- ・インクルーシブとは「仲間はずれにしない」という意味で、能美市が目指す地域共生社会を実現していくというメッセージでもある。

○大雨について

- ・8月4日の大雨で、寺井地区を含め、市内各地で冠水があった。過去に経験したことのない大雨で大きな被害があった。
- ・今回の大雨では大雨警報が出されてから、土砂災害警戒情報が出されるまで50分しか

なかった。今までは大体3～5時間後だったことを考えると、それだけすごい雨だったということである。朝4時～5時には市内に86mmの雨が降った。落雷で2件の火災が発生し、夕方には下水道が流れにくいという状況に陥った。9月議会では5億9,300万円の予算を議会に提案し認めていただいた。

- ・今回の大雨で、われわれ行政だけでは十分にできないこともあると実感した。町会・町内会長さん、民生委員・児童委員、防災士の皆さんがいろいろと協力をして、町内の公民館に避難所を作っていたいだいたり、土のうを作ったりして被害を最小限にとどめていただけるように協力いただいた。行政は人命を最優先するため、それ以外のところは市民の皆さん方のお力に頼らなければいけない状況があると改めてわかった。皆さん方にもどうやって自分の命を守るか、どうやって自分のエリアを守るかを考えていただくとともに、ご協力いただけるように市もいろいろとやっていかなければならないと感じ、施策を進めている。

○新型コロナウイルス感染症

- ・現在、感染者が増えてきている。感染拡大を止めるには基本的な感染対策を行う、ワクチン接種を行うことになる。接種の対象となる方には接種権を郵送しているので、接種を希望される方は予約して接種していただければと思う。

○能美市の施策

- ・7本柱の施策に加え、新型コロナウイルス感染症の施策、移住定住につながる施策として取り組んでいる。
- ・自治体の勢いを示す数値として人口増がわかりやすいと思っている。自然増と社会増をどう増やすかを今取り組んでいる。行政だけでは成しえないことなので、大事にしていることは市民力・地域力、ふるさと愛である。
- ・ふるさと愛とは、皆さんに能美市のことを好きになってもらう、能美市のことを誇りに思ってもらうことである。皆さんが能美市はいいところだと周りに言っていただくことであり、カフェトークやタウンミーティングは、皆さんに能美市のことをよく知ってもらう、皆さんがどんなことを思っているかを聞き、施策に反映させていくために行っている。

【市の施策】

- ・健康寿命の延伸、自然災害・事件・事故を減らすための防災・減災、多言語化、人材確保、非接触型サービスの展開、公共施設などの耐震化・長寿命化を進めている。

【マイナンバーカード】

- ・ 2万円のマイナポイントがもらえる事業があるので、ぜひ申請いただきたい。

【防災行政無線・情報発信】

- ・ 多重化を進めている。また、LINEの整備も進めている。

【情報のデジタル化】

- ・ 医療介護の分野において、持病やかかりつけ医、服用している薬などを事前にデータベースに登録し、必要な時に必要な情報を取り出せるようにすることを今進めている。胎児期から成長するまでの子どもの予防接種などの情報も一気通貫でわかるようにしていく。
- ・ 将来的には自宅で医師の診察を受けたり、ドローンで薬を運んだりする時代が来るであろうことから、能美市も乗り遅れないよう、誰もが取り残されない世界を作ろうと進めている。
- ・ デジタル技術だけに頼らず、直接人が接することも重要になってきている。マンパワーも最大限生かして取り組んでいく。

【女性の活躍推進】

- ・ 市役所の女性管理職の比率、市内小中学校の女性校長の数なども高い。頑張る女性プロジェクトとして、市役所正面玄関に看板を設置してある。戦略的企業誘致として、女性が働ける場所を増やす、広げていくことも進めている。

【施設整備】

- ・ ふるさと歴史のひろば、九谷焼美術館 | 体験館 |、給食センター、健康ロードのリニューアル、新規整備を進めている。幼保連携型認定こども園として、湯野保育園と緑が丘保育園を新しくする。

【イベント】

- ・ 11月をアットホームタウンフェスとして、観光大使などによるゆかりのコンサートやオーケストラアンサンブル金沢の公演を行う。

【千載一遇のチャンス】

- ・ 2023年は加賀立国1200年を迎え、県内では国民文化祭も行われる。ぜひ皆さんも出演、参加をしてほしい。2024年には新幹線の開業やパリ五輪。2025年には市制誕生20周年を迎えるので、市においてもいろいろなことをやっていきたい。

4) カフェトーク

○寺井図書館のトイレについて

【参加者】

- ・寺井図書館のトイレが死角になっているため改善してほしい

【市長】

- ・トイレに関して、防犯カメラがあることがわかるよう掲示をする。防犯ブザーに関しては、共用のトイレにおいてあるが、全てのトイレの設置はしていない。こういった対応がいいのか警察にも相談し考えていく。

○読書通帳について

【参加者】

- ・子どもたちのため、読書通帳を作ってほしい。

【市長】

- ・読書通帳は市でもある。読書スタンプラリーの景品として渡していたものである。子どもたちにもっと本を読んでもらえるような施策を考えていきたい。

【参加者】

- ・今のものは子どもっぽいので、大人向けも考えてみては？

【市長】

- ・需要を聞いてみる。

○小長野地区・大長野地区の通学路について

【参加者】

- ・中東建設の工場近くの道路は、道路と田んぼの高低差が1メートル近くあり、雪が降ったときなどは境目がわからなくなり子どもが田んぼに落ちてしまう危険がある。ガードレールなどの設置をしていただきたい。また、人気がなく子どもたちしかいない時間帯だと危ない。

【市長】

- ・通学路の点検は随時行っているし、私自ら確認にも行っている。この話も伝えておく。

【参加者】

- ・マルエーから小長野町八幡神社に向かう道路にある注意喚起の看板が目立たない。車

に強い注意喚起を促す看板や表示を設置してほしい。例えばひぼ能ん、ゆず美んを描いた能美市オリジナル看板の作成はどうか。

【市長】

- ・実際どれくらい危険なのか確認し、対応していきたい。
- ・市内ではゾーン30というキッズゾーンエリアを拡大している。

○LINEでの情報発信について

【参加者】

- ・女性会のお知らせなどを一緒に発信してもらえないか。

【市長】

- ・検討する。そういった要望は多くなると予想されるが、情報が多岐にわたると、見る人が混乱することもあるので、吟味していきたい。

○マイナンバーカードの申請窓口について

【参加者】

- ・マイナンバーカードの申請窓口を21時まで延長してほしい。仕事の関係で19時までだとなかなか行けないとの声も聞く。また土日は子どものスポーツの試合があり行けない人も多いと思う。

【市長】

- ・受付、申請の際に利用する機械が動かないと対応できないので、確認してみる。

○寺井小学校前の道幅について

【参加者】

- ・寺井小学校の前の道は、車が行き交うには狭いと思う。

【市長】

- ・将来広がる。能美東西連絡道については、順次工事を行っている。

○「たすけっと」（中町）について

【参加者】

- ・中町にある「たすけっと」という建物は現在、水道や電気が通っていない。今後もそ

のままか。ボランティア活動で利用したい。

【市長】

- ・一度確認したい。

○給食センターについて

【参加者】

- ・自校式給食を望んでいる声が多い。今回の施策はすでに進んでいることなので、どうにもならないが、移住定住の施策を考えていく上で、子どもたちの心が豊かになる、ソフト面での施策も進めていってほしい。

【市長】

- ・老朽化した学校においても安全で安心な給食を変わず提供するというを最優先し、給食センターを整備することにご理解をいただきたい。

○部活動の観戦におけるコロナ対策について

【参加者】

- ・観戦できる人数が2名に限られており、家族全員で見に行けない。また観戦にあたり、同意書の提出を求められるのはペーパーレスの時代にそぐわない。

【市長】

- ・観戦に関することは国の方針を出していて、それに従っている。
市内体育施設を利用する際に体温を書くなどのことは省略している。一度調べてみる。
- ・いろいろなご意見をお持ちの方がいて、最大限配慮しながら各行事などを行っている。

○和田山のバーベキュー場について

【参加者】

- ・誰を対象に整備していくのか。和田山は子どもも好きだったので、どんな場になるのか、利用する人しか入れないのか気になっている。

【市長】

- ・和田山は車を横付けして、降りてすぐバーベキューができるような施設にして、まずは市民に利用してもらいたいと思っている。

○ふるさと愛の醸成について

【参加者】

- ・地元にはたくさんのいろいろな分野の先生がいる。ふるさと愛の醸成は子どもたちだけでなく、大人にも機会があればいいと思う。

【市長】

- ・いろいろなことをしているが、発信の仕方が弱いのか、参加率が伸びていないのが現状である。

○各種団体の継続について

【参加者】

- ・女性会の会員が少しずつ減ってきている。地域のコミュニティが分断され、なかなかお声掛けできなくなってきている。

【市長】

- ・女性会に限らず、全ての団体が同じ悩みを抱えている。そこに所属している人が口コミで良さを伝えていくことが大切だと思う。

5) 閉会